



カイは何から、どうやって生まれるの

カイは、カイの親から卵で生まれる

カイは、たいてい、卵を産んでふえます（卵が親の体内でかえり、子貝が生まれてくるように見える種類もあります）。カイの種類によって、卵の産み方もいろいろです。

二枚貝のアサリやカキのように、卵を海水の中に、ふき出すカイもあります。巻き貝の仲間のいくつかは、卵の入った、かたくてじょうぶなふくろを、海底の岩の上などに、産みつけていきます。この卵のふくろが、縁日などで、「うみほうずき」として売られています。

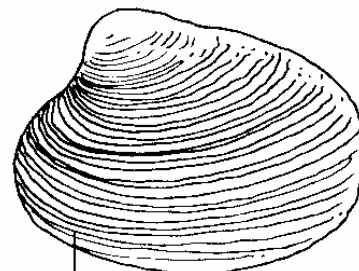
カエルの卵などと似たような、ゼリーのような、とう明なものに卵を包んで産むカイもあります。

卵からかえったカイの子どもは、海の中を泳ぎ回る

アサリなどの卵からかえった子どもは、プランクトンとして海の中を泳ぎ回ります。あつていど大きくなると、海底生活に入って、海水から体内に取りこんだカルシウムを材料にして、貝殻をつくりはじめます。巻き貝の仲間の、卵が「うみほうずき」になる種類は、かたいふくろの中に、たくさんの卵が入っていて、あるところまで育てて子貝になって外へ出てくる種類もあれば、プランクトンになったところで外へ出てくる種類もあります。

成長とともに、貝殻は大きくなる

どのカイも、人間の子どもが大きくなるにつれて、骨が成長するように、貝殻も少しずつ大きくなっていき、やがて、親貝と同じカイに育ちます。そのため、貝殻を観察すると、木の年輪のようなしま模様（成長線）が貝殻にできています（臥修・杉浦 安）



二枚貝の成長線

